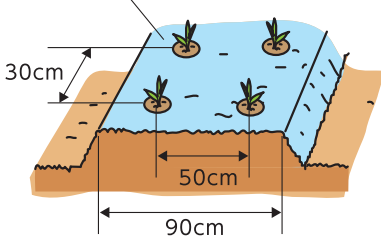
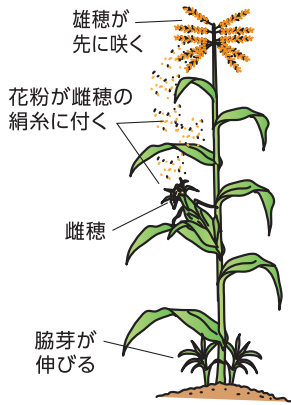


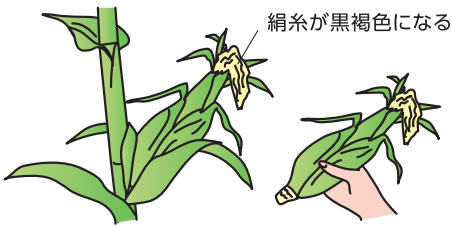
(図1) 黒色ポリフィルム



(図2) トウモロコシが育つ姿



(図3)



手でつかんで元からもぎ取る

参考にしてください。

つかむ中に手応えがある

交雑率は花粉親株と種子親株の距離が離れるほど低くなり、距離0.3mの平均交雑率は23%、10〜50mでは0.1〜0.3%と極めて低くなるという調査データがあります。

もぎたての新鮮な味は格別で、夏の家庭菜園の立役者、スタミナ源としても魅力です。糖分の多いスイートコーンの品種改良は急速に進み、平成の初めごろに比べるとビタミンB群やCが約1.5倍に増えている物もあり、栄養価の充実した健康食材になっています。

イネ科の作物なので、野菜畑の連作障害を避けるための輪作に組み入れるにも好適です。

高温(適温は22〜30℃)を好むので、十分暖かくなってから種まき

野菜づくり

チャレンジ！

もぎたての味を楽しむトウモロコシ

します。5月上旬以降が良いでしょう。黒色ポリフィルムでマルチをし、株間30cmを目安に1カ所3粒まきします(図1)。育つにつれて間引き、草丈17〜20cmになった頃に1本立ちにします。

粒がぎっしり付いた良品を得るには、雌穂に雄穂の花粉が十分に付くことが大切です(図2)。そのためにも株数がある程度多く、1列植えよりも複数植えにしましょう。少ない株数で花粉不足が懸念される時には、開花した雄穂の下辺りを手のひらで軽くたいて花粉を散らし、下方の雌穂に付きやすくしてやりましょう。

葉の働き(光合成)を良くするために、下の方から出た脇芽は取り除かないで葉数を多くします。また雌穂は上の方の一番大きい1穂だけ残し、他の小さい雌穂は取り除き

ます。追肥は草丈40〜50cmの頃と、先端の雄穂が出始めた頃の2回、化成肥料を与えます。施肥量の目安は、1株当たり大きじ1杯としますが、前作の残渣が多く、葉の緑が濃く旺盛に育っていたら適宜量を減らしてください。2回目の追肥の後、株元が小高くなるほど土寄せすることで、根が多くなって風で倒れるのを防ぎます。

収穫は絹糸の先が黒褐色に変色した(受粉後22〜26日)ころです。先の方まで十分膨らんでいることを確かめてからもぎ取ります(図3)。

近くに異品種があると、その花粉によって雌穂の粒に花粉親の形質が現れます。これをキセニアといいます。例えばあまり甘くないスイートコーンの近くで栽培すると、味や品質が著しく低下してしまいます。

交雑率は花粉親株と種子親株の距離が離れるほど低くなり、距離0.3mの平均交雑率は23%、10〜50mでは0.1〜0.3%と極めて低くなるという調査データがあります。

【注意】ミツバチや蚕に対して影響があるので注意してください。ラベルに基づき、ご使用ください。

※お気軽に各営農センター(営農購買課)へお問い合わせください。

肥料・農薬のご紹介

食害から守る！

トウモロコシ専用殺虫剤「デナポン粒5」



トウモロコシを収穫してみたら、虫に食べられていた！ということはありませんか？

その原因はアワノメイガの幼虫です。葉の裏でふ化した後、茎の中に入り雄穂の花や、出来た子実を食害していきます。

そこで役立つのが「デナポン粒5」！手で簡単に散布でき、殺虫効果も長く続きます。

茎の先から雄穂が出る時期と葉の脇から雌穂が出る時期の2回、葉の上や葉と茎の間によくかかるように、上からパラパラとまきます。

食害されてからでは遅いので、被害が出る前に防除しましょう。

【注意】ミツバチや蚕に対して影響があるので注意してください。ラベルに基づき、ご使用ください。